

## 令和3年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立松梅中学校

5月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童（生徒）の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校生徒の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

### ■ 調査期日

令和3年5月27日(木)

### ■ 調査の対象学年

中学校3年生生徒

### ■ 調査の内容

#### (1) 教科に関する調査(国語、数学)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。
- 調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、記述式の問題を一定の割合で導入する。

#### (2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

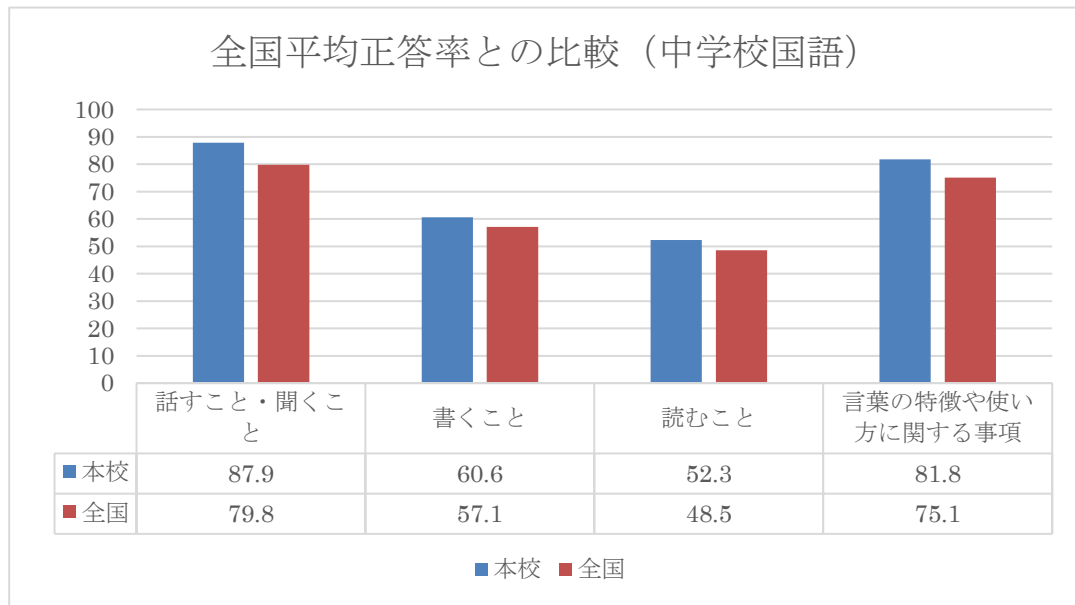
生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査 (例)国語・数学への興味・関心、授業内容の理解度、読書時間、勉強時間の状況など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例)授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況など

### ■ 調査結果及び考察について

全国学力学習状況調査は小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数・数学に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご理解の上、ご覧ください。

## ■ 調査結果及び考察

### 1 国語



#### (1) 結果

どの領域も、全国平均正答率よりも高い正答率でした。特に「話すこと・聞くこと」「言葉の特徴や使い方に関する事項」では8ポイント以上上回っていました。また、無解答率は、全問題で0%でした。

#### (2) 成果と課題

今回の調査では、「話すこと・聞くこと」が、全国平均正答率を 8.1 ポイント上回っていました。このことから、話題の内容や方向性、話し手の意図を読み取ること、またその内容に応じて話す内容を考えるという力がついていると考えられます。さらに「言葉の特徴や使い方に関する事項」が 6.7 ポイント上回っていました。これは、漢字や文法等の小テストを定期的にくり返し行った成果だと思われます。

課題は、「書くこと」「読むこと」の力を伸ばすことです。どちらの平均正答率も全国平均正答率を上回っているものの、他の領域に比べて正答率が低く、苦手としている生徒が多いことがわかります。また、問題形式の中では、比較的、記述形式の正答率が低く、文章に表れているものの見方や考え方を捉えた上で自分の考えを表現したり、伝えたい事柄を相手に効果的に伝えるように書いたりすることが苦手だとわかりました。「読むこと」と「書くこと」を連動させながら、「思考力・判断力・表現力」を伸ばすような授業へと改善することが必要だと捉えています。

#### (3) 学力向上のための取り組み

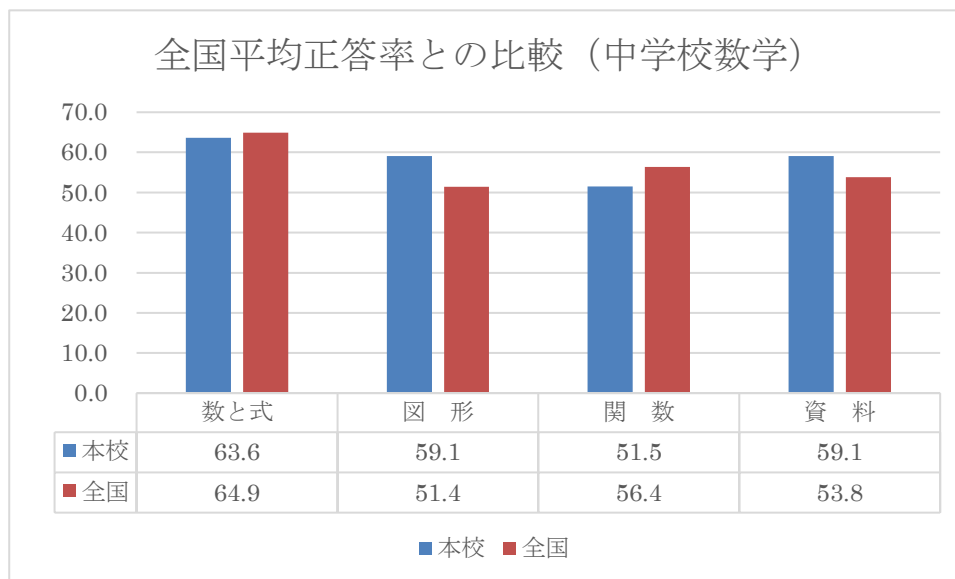
##### 【学校では】

- 表現することに対する苦手意識を払拭するために、材料集めの段階で子ども同士が考えを交流し合う時間を持ち、その考えを深めたり広げたりできるようにします。また、推敲場面でも友達と交流し、お互いに文章を推敲し合う活動を設けます。
- 文章の中で使われている言葉を他の言葉と置き換えたり、文章を書く際に教科書に掲載されている言葉を使ったりすること、辞書を活用することを通して、語彙力の向上に努めます。

##### 【ご家庭では】

- 読書はもちろんのこと、新聞などを活用して、いろいろなジャンルの文章に触れる機会を持ってほしいと思います。様々な筆者の表現の工夫や文章構成の工夫に触れることは、自分で文章を書くときの参考にできるだけでなく、語彙力を磨くことにもつながります。
- 日頃の会話の中で、自分の考えを表現したり、話の内容を要約したりする機会を持ってほしいと思います。繰り返すことで、読解力や表現力の向上につながります。

## 2 数学



### (1) 結果

「図形」と「資料」では、全国平均正答率と比べて非常に高い正答率でした。一方、「関数」では全国平均正答率よりも約5ポイント低い正答率でした。無解答率を見ると、ほぼすべての問題で0%で、全国平均より低い無解答率でした。

### (2) 成果と課題

今回の調査では、「図形」が全国平均正答率を7.7ポイント上回っていましたが、その中でも扇形の中心角と弧の関係に理解は20ポイント以上上回っていて、理解の高さがうかがえました。また、「資料の活用」の領域では、表やグラフから必要な情報を適切に読み取る問題の正答率が100%と、十分に力がついていることがわかりました。一方、問題形式の「記述式」の問題では、全国平均正答率を4ポイント以上下回っています。また、数学的な技能や知識・理解については身につけているものの、数学的な結果を事象に即して解釈したり、数学的な表現を使って説明したりすることに課題が見られました。

日々の授業で自分が考えたことについて説明する活動を継続して取り入れ、記述した内容を確認させながら定着を促すことが重要であると考えています。

### (3) 学力向上のための取り組み

#### 【学校では】

- 式から答えを出すだけでなく、式の意味を考えさせたり、式に合う問題を作らせたりしながら、数学的な見方や考え方を定着させていきます。
- 様々な見方や考え方ができるように、グループで話し合ったり、他の人に自分の考えを説明したりする活動を取り入れていきます。また、自分の考えを、式や表などの数学的な表現を使って、論理的に書く機会を増やし、記述力の向上に努めます。

#### 【ご家庭では】

- 子ども達に、「毎日数学の問題に触れること」「その日のうちに復習をし、わからないところは印をつけて、質問したり、もう一度解き直したりすること」を大切にするように話しています。毎日繰り返すことで、着実に力を伸ばすことができます。お子様のノートやワーク、プリント等の様子やテスト、宿題に取り組む様子をご覧になって、励ましや称賛の言葉をかけてください。

#### 4 生活習慣や学習習慣に関する調査

##### (1) 結果 《生活習慣・挑戦心・規範意識について》

調査項目	本校 %	全国平均 %
朝食を毎日食べていますか。	90.9%	81.8%
毎日同じくらいの時刻に寝ていますか。	36.4%	36.3%
毎日同じくらいの時刻に起きていますか。	45.5%	57.6%
自分にはよいところがあると思いますか。	9.1%	34.5%
難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか。	9.1%	20.0%
人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	81.8%	74.3%
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	81.8%	81.4%

朝食については全国平均を上回っていますが、起床については全国平均を大きく下回っています。生活リズムを大切にしていくことはとても重要です。家庭と学校が協力して、習慣化していきましょう。

自尊心や挑戦心の項目については、肯定的な回答をした生徒は全国平均よりも低い結果が出ています。

##### 《家庭学習の様子》

調査の項目	本校%	全国平均 %
家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。	9.1%	19.4%
学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間勉強していますか。「3時間以上」	18.2%	12.3%
「2時間以上、3時間より少ない」	9.1%	29.5%
「1時間以上、2時間より少ない」	72.7%	34.1%
「30分以上、1時間より少ない」	0.0%	14.1%
「30分より少ない」	0.0%	6.4%
「全くしない」	0.0%	3.5%
新型コロナウイルス感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、勉強について不安を感じましたか。	45.5%	34.6%

自分で計画を立てて勉強すると答えた生徒は、全国平均を下回っています。また、家庭学習については1時間未満の生徒はいませんが、2～3時間の生徒の割合が、全国平均を大きく下回っていました。「家庭学習の手引き」をもとに家庭学習の意味を保護者や生徒に伝えて家庭学習が習慣化するように指導をしていきます。また、新型コロナウイルス感染症拡大による生徒の心の問題も、大切な課題であるととらえています。

##### (2) 改善に向けての取り組み

###### 【学校では】

- 学校からは、学年に応じた宿題を出しています。自主学習（自学）についても全学年で取り組み、模範となる自学ノートを廊下に掲示し、定着しつつあります。今後も続けていきます。
- 学級活動の時間を活用して、家庭での時間の使い方や家庭学習の計画の立て方の指導をしていきます。
- 一人一人が活躍できる出番を作り、それをお互いが認め合うような機会を設けることにより、自尊感情を高めていけるようにします。

###### 【ご家庭では】

- 今できていること、努力していることを認める言葉をかけてもらうことで、子どもたちは自信を持ち、その自信が次の一歩への原動力になります。学校とご家庭が連携して、温かい目で見守っていきたいものです。
- 学習時間の目安は、学年+1時間です。集中して学習に臨めるように、休憩とのけじめをつけて学習できるように励ましてください。